

当院におけるパーキンソンリハビリ教育入院の取り組みについて

山根一志¹⁾、増田裕一¹⁾、重清太郎¹⁾、山本直宗²⁾
(藍野病院 神経内科¹⁾、 藍野病院 内科²⁾)

当院では 2015 年 1 月からパーキンソンリハビリ教育入院を開始し延べ 300 人以上が入院されております。4 週間の入院プログラムで医師、セラピスト (PT/OT/ST による個別訓練)、薬剤師、臨床心理士、社会福祉士、栄養士、看護師の多職種で連携し、入院をサポートし、リハビリテーションとして関節運動、筋力増強運動、日常生活動作練習、頭の体操、バランス運動、パーキンソンドダンスなど行っております。その他不安の軽減やリラックス効果があるとされるタクティールケアや茶話会を通じてパーキンソンの患者さん同士でお話したり、困ったことを気軽にスタッフに相談できる機会になっています。患者様には教育入院で得たりハビリや知識を活用してこれからの日常生活での過ごし方に役立てて頂ければと考えております。当院でのパーキンソンリハビリ教育入院の取り組みについて入院前後での MDS-UPDRS partⅢ、BergBalanceScale (BBS) とその変化量なども御紹介させていただければと思います。